

上杉謙信の白井城攻め

第二次国府台合戦の後、東関東地方に力をひろげた後北条氏に対して1566年(永禄9年)関東管領であった越後国(今の新潟県)の上杉謙信は、反後北条派の安房国の里見氏や足利藤氏の要請で大軍をひきいて下総国の臼井城を攻めました。後北条派であった臼井城主原胤貞は、はじめ苦戦をしましたが、のち千葉氏の当主であった千葉介胤富の助けをかりて謙信の軍をやぶりました。



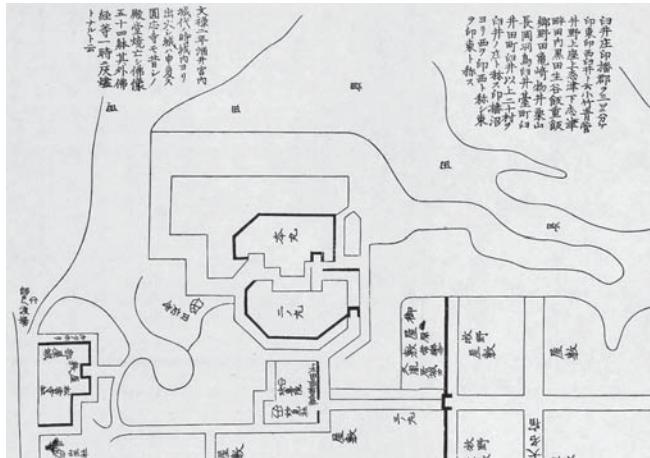
臼井城跡 佐倉市臼井

臼井城は、弘治3年(1557)臼井景胤の死後、原胤貞が入城した。



上杉謙信像 上杉神社蔵

長尾為景の子。関東管領上杉憲政の要請で、度々関東に出兵し北条氏と戦火を交えた。永禄9年、上杉謙信は、小金・船橋方面から下総に侵入し、臼井城を包囲した。城は堀を一重残すだけになったが、千葉介胤富・原胤貞は反撃に転じ、謙信は、5千余の死傷者を出して敗退した。



臼井城の図 「成田名所図会」より



臼井城攻の図 「成田名所図会」より